

ＯＪＴツールを用いた教師力向上のための研修の工夫

福島県教育センター 主任指導主事 鈴木 久米男

1 研究の趣旨

本研究は、研修を自己課題に基づいた取組みとするための手立てとしてＯＪＴツールを開発し、それを用いることにより教師力の向上を図ることを目的としている。ここでいうＯＪＴツールとは、教師力の向上を図るために、研修を自己診断に基づく組織的な取組みとするためのシート類を指す。学校における教育活動の質は、教師一人一人の力量に負うことが多い。このことから、教師の教育活動における実践的な指導力を教師力と位置付けた。

教師力は実践に基づく研修で育まれていく。学校においては研修の重要性が認識されてはいるものの、研修に対する教師の意識と研修の方法については、次の二つの課題が挙げられる。

一つ目は、研修を教師一人一人の自己課題に基づいた取組みにしていくことである。二つ目は、校内において研修を進める際、研修者と同僚教師や組織とを意図的に関係付けていくことである。これらの課題を踏まえて、教師力を高めていくためには、研修を自己課題に基づくものとして、協働による組織的な取組みを進めていくことが必要であると考え、ＯＪＴツールの開発に取り組むことにした。

2 研究の概要

教師力を捉える五つの視点を設定し、教師を対象にした調査により教師力に対する認識の実態を明らかにした。それらの実態を踏まえて、教師力を高めるためのＯＪＴツールを開発し、研究協力校においてＯＪＴツールによる研修を実践することにより、その有効性を検証した。

以下は本研究の実践の概要である。

(1) 教師力を捉えるための視点の設定と認識調査の実施

教師力を捉えるために、各種審議会、先行研究を踏まえて、児童生徒に対する教師の実践力として「授業づくり」「社会性・人間性の育成」「学級・学校づくり」「協働・連携」「省察・自己研鑽」の五つの視点を設定した。この視点に対する教師の認識を明らかにするために、県内の教師を対象に調査を実施した。調査により、五つの視点の中の「省察・自己研鑽」すなわち「日々の実践」の振り返りへの意識が低いという課題が明らかになった。

(2) ＯＪＴツールの開発

学校の実態及び調査結果を踏まえて、研修が「自己を振り返る」「学校組織を生かす」「実践に結び付く」ものとなるためのＯＪＴツールを開発した。

ＯＪＴツールは、ＯＪＴを実施するための各場面に応じたシート類から構成される。作成したシートは、教師力を自己評価するための「自己診断票」、自己診断に基づいた研修計画を作成するための「自己研修計画書」など6種類である。

なお、ＯＪＴツールは統計ソフトであるエクセルで作成した。右図は、初期画面であり、画面右側の「振り返り・記録」の該当部分をクリックすることで、それぞれのシートに移動したり、データ入力後のグラフを作成できたりするなど、作業を自動化した。



図 ＯＪＴツールの初期画面

(3) ＯＪＴツールの有効性の検証

開発したＯＪＴツールによる研修を、研究協力校において実践し、ＯＪＴ実践者の認識の変容や教師力の向上、児童の変容からＯＪＴツールの有効性を検証した。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

本研究の成果として、次の三点が挙げられる。

ＯＪＴツールを用いることにより、研修がＯＪＴ実践者の自己診断に基づいた、日常的なものとなり、教師力向上に結び付けることができた。

研修の実施において、各分掌主任などがＯＪＴ実践者に対する支援者になることにより、支援が分掌組織を踏まえた協働的なものとなった。

ＯＪＴツールを用いて、ＯＪＴ実践者が年間を通した自己研修の取組みを進めてきたことにより、学力面や生徒指導面での児童・生徒の変容をみることもできた。

(2) 今後の課題

本研究における今後の課題として、次の二点が挙げられる。

ＯＪＴツールによる研修をより効果的に進めるためには、実践を通してＯＪＴツールのシート類を改善・修正し、ＯＪＴ実践者への支援の在り方をより具体化していく必要がある。

本研究におけるＯＪＴツールの実践は、対象が限られていた。学校の組織力の向上を図るためには、ＯＪＴツールを用いた研修を全校的な取組みにしていく必要がある。